

総合計画審議会の審議状況について（第6回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

第3次総合計画 基本構想(最終案)について [まとめ]

【開催概要】

第6回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。第6回の意見交換では、第3次総合計画基本構想(最終案)について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和7年1月15日(水)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 第3次総合計画基本構想(最終案)について (2) 意見交換 4 報告事項 (1) 第3次総合計画基本計画策定に向けた進め方について 5 事務連絡 6 閉会



【意見交換での主な意見】

- 「にぎわい」というキーワードを使って、疾病予防や健康診断の推進、高齢者支援など健康・福祉分野の取り組みを進めていく市の取組姿勢に共感を持った。
- 人口減少が進む中で各政策分野のギャップを埋めるためには、例えば、市役所業務のデジタル化やAIの活用、ICT教育の発展など、デジタル技術を活用していくことが不可欠であり、これらの観点を計画に反映する必要がある。
- 「にぎわい」という言葉は、人々が活動する様が想像できる表現だと感じた。また、「誰もが笑顔で自分らしく輝ける」という目標は、全ての人が個性を尊重し合いながら活躍できるといった意味が含まれていて共感できる。
- 多文化共生の視点から、外国人住民がまちづくりに参加しやすくなるための伝わりやすい計画の作成と、外国人も含めた全ての住民が安心して長期的に暮らせるように、行政サービスが平等に提供されることを求める。
- 今後まちづくりを進めていくうえでは、基本構想の「にぎわい」などのキーワードの定義に立ち返り、健全な「にぎわい」とそうではない「にぎわい」などを議論したり、市民と共有することが重要となる。
- 今後は、この基本構想をもとに具体案を検討していくことが重要になる。観光分野であれば、新たな観光資源の開発など挑戦する姿勢が求められる。パブリックコメントは件数が少なく寂しい印象を受けた。
- 人口減少など10年後の子育て環境は相当変化することが予測されるが、予め変化を推計して、どのように対応するかを考えておくことが重要。また、子育てや教育分野は人と人の触れ合いが重要であり、AIなどで代替できない。
- 「ずっと続くまち」というワードに安心感を持った。人口減少を緩和するため、現在の住民が楽しく過ごせる環境を整えるとともに、移住者や外国人、戻ってくる学生等が人と繋がりを感じられるまちであることをPRするべき。
- 消防団員の減少などの現実を踏まえると、防災意識の向上や体制整備と言っても遠い目標のように感じる。また、加速する人口減少に対処するスピード感や、外国人も含めた市民にわかりやすい表現を取り入れることが重要だと思う。
- パブリックコメントが少ないのは、関心が低いからか質問がないだけかは精査が必要。「にぎわい」は市民のみから生まれるものではなく、関係交流人口含めて文化や知識が交わることで、まちの活気として現れてくるものだ理解している。
- 「にぎわい」は、一般的には人流を生み出すことだと受け止められる。基本構想の資料では丁寧な説明がされているが、これだけの説明を市民にすることは難しいため、市の考え方をコンパクトに分かりやすくプロモーションする必要がある。
- これまで袋井市で50年近く生活しているのは、素晴らしい人々との繋がりがあからだと思う。「にぎわい」には人は欠かせないし、人との繋がりに重きを置いて今後の計画を考えていきたいと思う。
- まちの将来像を踏まえて、人と触れ合いが好きなメンバーと共に小さなにぎわいを作り、それがまち全体の大きなにぎわいに繋がることを目指して活動したいと感じた。
- 説明が必要な言葉をブランディングに用いるのはどうかと思うので、別途キャッチコピーを検討するなどして欲しい。「ずっと続く」で表現されるサステナブルの考え方は重要。また、今後は各政策分野ごと専門家として意見していきたい。
- 「にぎわい」の定義を明確にできた点は良かった。今後は具体案の議論に移るが、例えば教育分野では、外国にルーツを持つ子どもや発達障害の子どもなども輝けるまちを実現するための方針など、しっかり議論していきたい。
- 読み進めていくことで街の将来像の実現に貢献したい気持ちが芽生えてきた。若者の社会貢献意欲やテーマごとの繋がりを重視することが重要であり、都市部から移ってくる人々の専門分野を活かす窓口があると良いと感じた。
- 「にぎわいずっと続くまち ふくろい」の定義が、一般的な受け止めとギャップがある。ロゴデザインやキャッチコピーの検討、文章を短くして覚えやすくするなど工夫すべきだと思う。